

平成24年度「基礎・基本」定着度調査について

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨・目的

県内の児童生徒の学力の定着度について、客観的なデータに基づく把握・分析等を行い、各学校における指導法改善の取組等を支援することにより、児童生徒の学力向上を図る。

(2) 調査の重点

今年度も引き続き、選択式の設問に加え、知識・技能の活用に関する記述式の設問などを一定数出題した上で、目標平均通過率を70%に設定した。

(3) 調査の実施日

平成25年1月16日(水)、17日(木)

(4) 対象学年、対象教科

小学校第5学年(国語、社会、算数、理科)

中学校第1・2学年(国語、社会、数学、理科、英語)

2 結果の概要

全14調査中、目標平均通過率を達成したものが8調査であり、県全体では、昨年度から一定の改善が図られたと評価できる。

他方、各教科や地区ごとにみると、改善のみられたものとみられないものがあることから、授業改善の取組を一層推進する必要がある。

下記の、県としての全体的な課題・傾向については、依然として継続している。

(ただし、教科や地区によって差がある。)

- ・ 小学校段階の通過率は、すべての教科で目標を達成しているが、中学校段階では、学年の進行に伴い、学力の定着が十分に図られていない面がみられる。
- ・ 小学校・中学校段階に共通して、基礎的・基本的な知識・技能については比較的定着がみられるものの、それらを活用し、思考・表現する力が不十分である。

3 各教科の平均通過率等

		H24	H23
国 語	小5	71.9	72.4
	中1	69.0	74.0
	中2	72.0	65.7

各学年とも漢字の読み書きや語句の意味などについては、概ね定着が図られている。
文章を「読むこと」「書くこと」の定着が不十分であり、発表や報告などの言語活動の充実を図る必要がある。

		H24	H23
社 会	小5	75.9	69.2
	中1	69.7	69.6
	中2	66.7	63.4

小5は「農業」、中1は「世界の地域構成」、中2は「日本の諸地域」において、特に定着が図られている。
諸資料から読み取らせた事実を基に、「なぜ~だろう」などと考えさせたり、考えさせたことを基に表現させたりする活動の充実を図る必要がある。

		H24	H23
算 数	小5	74.6	69.6
	中1	72.1	66.7
	中2	64.7	65.7

小5は「量と測定」、中1は「資料の活用」の領域で課題がみられるが、全体的に通過率が上昇し、概ね定着している。
判断の根拠を述べたり、考えたことを筋道立てて説明したりする活動の充実を図る必要がある。

		H24	H23
理 科	小5	72.5	72.3
	中1	61.3	63.9
	中2	62.9	64.6

小5は「生命・地球」、中1は「地学」、中2は「生物」の領域において、概ね定着が図られている。
児童生徒が自分の予想や仮説、まとめを自分の言葉で書き、学んだきまりを用いて推論や計算ができるような学習活動の充実を図る必要がある。

		H24	H23
英 語	小5	-	-
	中1	80.6	77.0
	中2	71.6	69.8

「聞く」及び「読む」ことの領域において、英語を聞いたり読んだりして概要・要点を把握する力は概ね定着している。
文構造等を繰り返して指導し定着を図るとともに、基本的な語彙や文構造等を活用した言語活動の充実を図る必要がある。

4 調査結果の活用(今後の対応)

今後、本調査の更に詳細な分析を行い、その結果を教職員研修等において集中的に活用することなどにより、県下全体での課題認識の共有と必要な対応の推進に、着実に取り組む。

また、平成16年度から9年間にわたり実施してきた本調査の結果等を検証し、今後の学力向上のための施策の検討・実施に生かす。